



コミュニティ しずおか

2018
10月
No.152



高齢者社会の 担い手のお手伝い **超! 気軽なPC講座**

みねだ地域づくり協議会
地域福祉健康部会
(菊川市)

▼5年前、地域の老人クラブの会長さんとの座談会で、「ここ数年、新人会員が少ないのが悩みである」と話が出た。この理由の一つとして、「入会すると会計や会長の役割が待っていて、総会や会計報告資料など書かなければならず、これが苦痛で入会しない」という。そこで、「高齢者でもパソコンが使えるようになれば、役員の負担が軽くなるのではないか」と部会で検討しパソコン講座を開設した。今年で4年目を迎えるPC講座の特徴は「PCサポーターの存在とサロンの様な講座」である。本年度の受講者は、12人(50～90歳代)。講座は、PCサポーター8人、年16回、土曜日に開講している。

▼受講者はPCのレベルに差異があるが、ひとり一人のレベルに応じてサポートし、脱落者を作らないようにしている。このPCサポーター存在なくしてこの講座は存続できない。因みにサポーターは、部会の組織「サポーターみねだ」のPCができる人たちや「PC講座修了生」である。とにかく楽しいので時間はあっという間に過ぎ、時間オーバーすることもしばしば。

▼講座最終日には学んだ成果の発表をし、修了証書の授与を行っている。「行事の案内作成が楽になった」「自治会の連絡事項をわかりやすく作成している」「確定申告が楽」など受講生からは喜びの声があがっている。

◇地域福祉健康部会：鈴木徳雄さん（問合せ・0537-73-3737）

【情報提供・村松正一】

Topics トピックス

クローズアップP2
顔の見える交流が自主防災力を高める(静岡市)

地域訪問記P6
自然に親しみ森林を守り隊んです(小山町)



「ミミック」
のつぎ・りえ

創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。

クローズアップ

サークル:キッズ英語



顔の見える交流が
自主防災力を
高める!!

サークル:フラワーチーム



屋上プール遊び



マークス・
ザ・タワー
東静岡自治会
(静岡市)



餅つき大会

再開発の進む東静岡駅の南出口から見上げるようにそびえる高層ビル。1階は銀行、2～4は病院の検診センターが同居する高層マンション「マークス・ザ・タワー東静岡」の自治会長の岡井さんと役員の中山さんにマンション自治会のお話を伺った。

このマンションができたのは8年前。当初は地元自治会の組としての出発だった。地区外からの居住者が大半で、マンション内においてもなかなかコミュニティが形成出来ない状況が続いた。

当時、岡井さんはマンション管理組合の専門部会「震災対策委員会」の委員長をしていた。東日本大震災の様

な大災害があったら「普段の交流がないのに大丈夫なのか？」と岡井さんは心配であった。顔見知りになってお互いを知らなければ、来たる災害への対応は難しいと感じていた。

新しい形の自治会作り、始動

平成16年に地元自治会から独立するためのプロジェクトが立ち上がった。5月管理組合総会にて地元自治会の現状を説明、全157戸にその資料を配布、自治会に

クリスマス会



日帰りバスツアー

関する意識調査の実施とステップを踏んでいった。80%の住民がコミュニティの必要性を訴えた調査結果を踏まえて、10月には管理組合の専門部会として「コミュニティ形成を考える部会」が発足。複数回の議論を重ね、部会で議論された報告書を全戸に配布し、マンション独自の自治会の必要性を訴えていった。12月には「自治会独立検討委員会」の設立、翌2月には住民への自治会独立の説明会を2回行った。3月には設立総会が開催され賛成多数にて決議され、4月より自治会活動がスタートした。そして自治会活動のネックである役員は持ち回りの順番制ではなく、2年任期の（再任は妨げない）自主裁量での立候補であるという事。役員のなり手不足の要因の一つである会計業務や各種配布物の回覧作業などは、管理会社に委託して役員就任へのハードルを低くしている。

独立1年後の意識調査では「コミュニティは形成されているか」の質問に「されている」38%（1年半前の独立準備段階では6%）と順調な滑り出しである。

顔の見える仕組み作り

自治会活動の主軸はサークル活動とイベント活動の2本立て。マンション共有施設を存分に使い、現在3つのサークルが活動している。『ひまわり会』は年齢基準の無い月1回の高齢者の親睦会。静岡でんでん体操や講師を招いての講演・講話など毎回多彩なメニューを



サークル:ひまわり会

実施。講演の後にはワンコインでのお弁当を頂きながらお喋りに花を咲かせるとの事。取材に同席頂いた中山さんは『ひまわり会』サ

ポーターの中心人物で「もっと多くの方に参加してほしい。現在会員募集中です」との事。『フラワーチーム』はマンション周辺の花壇への花苗の植栽活動を自治会活動が始まる前からやっている。静岡市から支給された花苗を、小さな親切運動静岡県本部及び学生のボランティアと年3回協力し合い植替えている。東静岡駅周辺の緑化運動への広がり期待している。子ども会の位置づけになるのが『キッズ英語』。地元外の幼・小学校に通う子が多く、子ども同士の交流が必要と感じた。英語を話せる人材と従来の子ども会とは違うものを求めている住民によって可能となった。英語を介してマンション内での交流を親子共々楽しみ、同世代の親同士の助け合いの関係が構築されつつある。

3つのサークル活動以外に各種のイベントも住民の意見を基に開催。屋上での「安倍川花火を見ながらピアガーデン」や元旦には「初日の出を見る会」など交流スペースを活用したイベントが目白押しである。もちろん参加は自由。数々のサークル・イベントは先に記した災害対応への布石なのである。お互いを思いやり日々、安心・安全・楽しく暮らせ、さっぱりとしながらも心強い味方となる、都市型共同体の出現である。岡井さんは「急増した東静岡駅南エリア周辺の他マンションとも交流して、東静岡の景観町づくりの一助を担いたい」とおっしゃっている。行き詰まり感のある従来の自治会活動の一つのヒントになる。そんな「マークス・ザ・タワー 東静岡自治会」の取り組みである。



◇代表：岡井聖一さん



レポート・中村弘美 編集委員

伊豆市

ふるさとルネッサンスを目指します!!

熊坂小学校区
地域づくり協議会



鮎を捕って食べた後は、生態についても学ぶ

▼伊豆市では、昔ながらの「地域の力」を出していくためには新たな枠組みが必要であるとして、現在7つの旧小学区単位で地域づくり協議会が発足。

熊坂小学区は、平成29年7月に協議会が誕生し、環境整備部会、生活安心部会、地域活性化部会、文化交流部会を作って活動している。

▼その中の1つ「文化交流部会」は、地域の昔の人々の活動を尋ね再現し、住民同士が交流することで「ふるさとルネッサンス(復活)」を目指している。

活動は、5つの分野別グループ(食文化、菜園文化、ジオ・歴史調査、生活文化、生き物観察)を作り、この5つのグループが連携・共同して3つの交流祭事業を展開している。

▼8月12日に開催した「野外交流会」では、生き物観察班が鮎のつかみ取りを企画し、食文化班と生き物観察班が鮎と地域の猪などの食材を調理し、ジオ・歴史班も加わり地域の名勝、自然について紹介。子どもも大人も楽しいひと時を過ごし「またやってほしい」との声も上がった。今後の熊坂地区のルネッサンスに期待したい。

◇代表:梅原宏史さん(問合せ・090-9232-2576(伊藤))【情報提供・伊藤 博】

裾野市

住んでいるからこそ気づきにくい「地域の宝物」

すそのおんぱく
実行委員会



自然体験のプログラムの1コマ

▼「すそのおんぱく」とは、裾野市内の魅力的なモノ・コト・ヒトに出会い、つながる参加型体験イベント。プログラムを提供する方、プログラムに参加する方、そして「すそのおんぱく」を支えてくれる皆さんと一緒に地域を豊かに元気にし、多くの方とのつながりを深めることを目指し、今回で4回目となる。

▼「すそのおんぱく実行委員会」は、市民有志がボランティアで運営。実行委員が市民に呼びかけ、住んでいるからこそ気づきにくい「地域のたからもの」を掘り起し、プログラム提供者をサポートしている。

▼首都圏などからの参加者もいるが、まずは市民自身に裾野の魅力を知ってもらうことを目指している。開催時期を10月に固定し認知度を上げるとともに、より多くの「地域のたからもの」を発掘していく。

※今年は、10月6日から28日まで開催します!

<https://shizuoka-onpaku.jp/susono/>

◇代表:深野裕士さん(問合せ・055-919-4233)

【情報提供・志田瑞代】

吉田町

地域や自然を愛する心をはぐくむ

吉田町4地区合同
地域教育推進協議会



20分ほど網を引くと魚の姿が見え始めた

▼「地域の子どもは地域で育む」をモットーに、吉田町では住民と教育委員会が連携をとりながら地域の大人と子どもの交流が活発に行われている。

7月22日、吉田町4地区合同主催「地引網と海岸清掃」が開催され、地元の子だけではなく、近隣の市や県外からの参加もあった。

▼子どもたちは網を力いっぱい引き、魚の姿が見え始めると歓声が上がった。スタッフから獲れた魚の説明をしてもらった後は、海岸清掃。その間に、スタッフが獲れた魚で魚汁を用意してくれ、魚嫌いな子も美味しいと吉田の海の恵みを味わった。

▼今年は例年より参加者が多く、スタッフを含め約300人が参加。熱中症の心配から海岸清掃は自主参加としたが、可燃ゴミ210ℓ、不燃ゴミが360ℓも集まり地域の海岸をきれいにした。

規模が大きいので、準備から当日の運営まで大変な面もあるが、「子どもたちの笑顔がうれしい」とスタッフも暑さに負けず頑張っていた。

◇代表:近藤順次さん、近藤直久さん、和田住男さん、酒井 仁さん

【情報提供・吉永優子】



掛川市

笑いは人生の薬だね、笑いを届けて10年

おかって劇団



10周年記念公演、会場は大盛り上がり

▼ご近所に住む5人の主婦が、地域の子どもたちやお年寄りを見守りたいという気持ちから仲間づくりから始まり生まれた劇団は、結成10年を迎え公演回数は400回に上り、今や市内外から引っ張りだこの人気の劇団となった。

平均年齢72歳。昔話に防災や介護福祉を織り交ぜたコメディークラウドで、地域に笑い自身の介護予防やストレス発散へと高齢者施設や小学校等へ出向き笑わせている。

▼5月には地域の皆様に贈り物として10周年記念公演「おかって城大奥物語」を披露した。団員の絶妙な掛け合いに、お客さんはクスクス、グラグラみ～んな笑顔。約200人に笑いを届けた。

「あつという間の10年。自分たちも楽しみながら社会貢献もできるのはうれしい、何より皆さんからもらうパワーが大きい。」昔に比べ遠方まで行けないことが悩ましいが、運転できるうちは動ける範囲でどこへでも！」と意欲を燃やす、笑いは人生の薬を体現している劇団である。

◇代表：富田暁子さん(問合せ・0537-72-4538)

【情報提供・鈴木国男】

磐田市

だれもが大切にされる思いやり防災を目指す

子どもの健康と環境を考える会



ママ対象の防災出前講座

▼平成16年発足。子どもたちの健康に影響を与える環境リスクについて学びながら、母親が日常生活の中でできる地球環境改善や男女共同参画の視点から防災について学び、女性たちが地域の防災活動に参画できる環境づくりに取り組む団体。年30回もの活動を行っている。現在会員30人。

▼「子どもを守りながら災害を乗り越える力をつけたい」母親の願いを実現するため、平成26年度から3年間、磐田市危機管理課との協働事業で「いわた防災マッププロジェクト」を実施。そして、ここでの学びや体験をまとめた防災情報冊子「ママのための防災レシピ」を作成。会では、この冊子を資料として会員各自が持つ専門性を活かしながら、子育て支援センター等で防災出前講座を開催中。女性も地域の防災活動に参画する事の大切さや、防災力をUPするため生活力を高めることを呼びかけている。

ママの皆さん、「ママのための防災レシピ」を是非検索してください！

◇代表：鈴木弥栄子さん(問合せ・0538-33-7432)

【情報提供・安部詠司】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます(アドレス <http://www.sizcom.jp>)

No.	市 町	活 動 名	主 催 者	趣旨・目的	月 日
1	南伊豆町	南伊豆町前原商店街で 寄席！？	南伊豆落語研究会	会員の趣味の発表の場と、南伊豆町前原商店街の賑わい創出。	年3回
2	三島市	ミニテニスの普及活動	三島市ミニテニス協会	高齢者が軽く汗を流すことができるスポーツの場の提供と普及活動。	練習 週1～2回
3	三島市	シャガリでつながる 東町納涼祭	東町自治会	7月中旬から8月初旬まで、三島市内の各自治会又は町内会主催の納涼祭が各地域で開催。	平成30年8月5日 9：20～19：10
4	沼津市	地域猫との幸せな共存を 目指して	プチアニマル	沼津市域を中心に、猫の不妊・去勢活動や里親探し、動物愛護の啓蒙活動を行っている。	随時
5	藤枝市	西益津地区 健康長寿応援隊	健康長寿応援隊	高齢者に対して健康維持を促し、地域の元気づくりを進める。	月6～8回
6	島田市	「あげんだい」で 地域の絆と伝統を守る	島田市牛尾地区自治会	伝統ある行事を受け継ぎ大切に育て地域の絆を大切に育む。	平成30年8月15日 20：00～21：00
7	御前崎市	童謡唱歌を正しく楽しく 歌って心も体も健康です！	どんぐり	積極的に表に出ることによって、生活の潤いと健康づくりも兼ねている。	月1回
8	菊川市	第11回 ふるさと夏まつりおがさ	ふるさと夏まつりおがさ 実行委員会	小笠地域住民相互の連携・協働・親睦を基本に、手作りの運営を心がけることを目的とする。	平成30年8月11日 15：00～21：00
9	菊川市	加茂地区文化祭	加茂コミュニティ協議会 実行委員	地区住民の親睦と交流を深め、住み良い地域づくりの一助とする。	平成30年11月25日 9：00～15：00
10	浜松市	ミニSL 電車で楽しく	浜松ミニSLランドハウス	手作り電車で小さな子どもたちと一緒に楽しく電車の運転会をする。	毎月 第1日曜日
11	浜松市	ららら音楽会	ヘルスポランティア 長上健康21	「音楽を楽しむ、こころ弾んで、そしてつながる」をテーマにした参加型サロン。	平成30年9月5日 13：00～15：00
12	湖西市	皆さん、一緒にリトミック に参加してみませんか？	キリンっくらぶ	親同士の交流と、子ども自身の表現方法をより豊かにする。	毎月 第3日曜日

自然に親しみ森林を守り隊んです！ ～知力と活力全開の顔なじみ男性集団の活動～

NPO法人北郷創林隊 (小山町)

静岡県の北東部に位置する小山町の北郷地区で豊かな森林資源の保護と有効利用、さらに子どもたちに自然体験活動の支援へと立ちあがった団体が産声をあげて今年で21年になる。

北郷地区の同級生・同窓生でスタート



左奥の男性から梶さん、山口さん、渡辺さん

70代までの知力と活力を持ち合わせた男性集団である。

取材を受けてくださった梶さん、山口さん、渡辺さんの3人の理事に、活動のきっかけを伺うと「先輩や同級生から声掛けられて」「知っている人がいるから入りやすかった」小中学校からのつながりがある顔なじみが集まり活動が始まっている。

NPOへ、町と学校とコラボレーション

スタート時は、楽しむことがメインだった活動も、県の要請で北郷県営林の育成管理を手伝うことになり、名称を「北郷創林隊」に改め、平成14年には、森林資源の保護



H26年、静岡県森づくり大賞で理事長褒賞を受賞

平成9年、気の合う仲間と森林育成の奉仕活動を通じて自然に親しもうと「北郷森林ボランティアの会」がスタートした。会員26

人は50代から

森林育成の奉仕活動を通して自然に親しんでもらおうと、地元の北郷小学校6年生を



緑の少年団、竹盒を作る小学生

子どもたちに喜ばれている。

グリーンツーリズム事業、町道の整備、町主催のイベント支援も含めてコラボレーション事業が続いている様子は見事。(周りのいろいろな活動とのコラボで新たな活力をもらっているんだ！)。

対象に「緑の少年団」を結成。「北郷の森」で春にクヌギ・ナラの植樹、秋は下草刈りと数キロ先の滝から引いた水を使い、竹飯作りを行う。竹で飯盒、箸、しゃもじを作り、竹飯盒で味付けご飯を炊く竹飯作りは大好評！



自作の器と箸でいただきます！

これからも自然体で継続を

活動を続けてきて一番よかったことは「子どもたちの笑顔が見られること」と異口同音。長く続いている秘訣を聞いてみる。「束縛をしない、できるときに協力」「自然の中で心身ともにリフレッシュできる」「代表に包容力がある」という。(自然体で取り組んでいることが長続きしている秘訣なのかな?)

最後に苦労話をちょっと・・・植樹の当初は、シカに食べられる、やせた土地で枯れる等、10本植えても2本育てばいい状態だった。でも、そこは知力・活力ある集団 大丈夫、なんとかなる！失敗を糧に鹿よけや肥料の改良を重ねている。

夢は「森の一角に池をつくり、アユのつかみどりをして乾杯したい」と笑顔で話してくれた。(・・・そのときは、またぜひ取材を希望します。)

◇代表：天野伸春さん(問合せ・0550-78-0107)

【情報提供・勝亦智子】



レポート：高村 光 編集員

緊急レポート

先の西日本豪雨災害について7月12～14日に、「しずおか茶の国会議」の一員として広島県に支援前の視察に入られた避難所の様子を、性別や多様な人々の視点からの地域の防災体制づくりを研究されている静岡大学教育学部教員池田恵子先生にレポートしていただきました。



西日本豪雨災害 避難所運営を改めて考える

池田恵子(静岡大学教育学部教員)

雨災害から1週間後のボランティア受入が始まった日、ある避難所で生活環境の整備と運営体制作りのお手伝いをしようとしていたその矢先、突然の避難勧告(ため池決壊の恐れ)で、どんどん人が避難して来られた。避難所の運営体制が軌道に乗るまでの間の課題を整理してみたい。

当初の状況

その避難所には約170人の方がホールや和室などに分かれて寝泊まりしていた。雑魚寝で、段ボールベッドや間仕切り板はまだ届いておらず、トイレは利用者がバケツの水をタンクに入れて流し、風呂は近くの別の施設で借りる。ホールの中にボードで目隠しした着替えスペースがあり、ペット用のスペースもベランダと物置に作られていた。

地元自治体から4人と応援自治体から7、8人の行政職員に加え、保健師(主に応援自治体から派遣)、他県の日赤医療チームが活動。保健師は健康相談室を、日赤医療チームは救護所を別々に開設していた。

物資は、道路が開通後に介護用品や女性用品を含めて入ってくるようになり、配布専用の部屋に女性の担当者が常駐していた。被災が比較的少なかった地区の女性が、避難所の中の調理室で炊き出し。この日のお昼ご飯は、おにぎり2個、みそ汁、野菜のおひたし少し。



高齢者が多い。赤ちゃん連れは見当たらない。妊娠中の女性はいないらしいが、明確に把握したわけではない。名簿の整備や、避難者の実態把握(福祉ニーズ、家族や被災の状況など)はまだこれからで、健康相談室には個別の相談の情報があっても運営側に共有されておらず、常に寝泊まりする人数も正確には把握されていない。多様な支援者相互の調整は行われていないように見えた。

この様な状況の中、避難勧告発令

担架で運ばれてくる寝たきりの人、猛暑の中杖を突きながら来た人、家族に両脇を抱えられ来た人、知人を探しに来た人、救急車で運ばれ車椅子で建物の中へ移動する人、…。しかし、どんな状態の人にとどの部屋に入ってもらえるのか対応する人がいない。外から来た応援自治体の職員には判断ができない。

廊下に立ったままの避難者が増えた。ホールがあるのだから、必ず椅子が大量にあるはず。しかし、誰も椅子を探して出そうとしない。車椅子をその都度回収して玄関に戻す人がいないから、玄関まで辿り着いた避難者が部屋まで移動できない。地域の人が、「この施設も危ないからここに避難するのはダメだ」と駆け込んで来る。対応している行政職員は疲弊し、体調が気になる職員の姿も見受けられた。

もし静岡だったら、私たちには対応できるだろうか？ 避難所運営マニュアルを作ればOKではない。誰もが率先して動けるような実動的な訓練、外部からの支援者と有効に連携する訓練が必要だと改めて感じた。

※「しずおか茶の国会議」：県ボラ協、県社協、NPO、ボランティアなどがチーム静岡として連携を図り支援を行っている。





地域活動に関心のある方へ！ 募集します

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

★アフター研修会と中部支部研修会を 合同で開催します！

「つながる地域活動、次世代へつなげる地域活動」

今回は、「協同で物事を達成する楽しさ」「みんなで集い、憩う楽しさ」を
発表し、地域の方々にコミュニティ活動を理解推進していただくには何が
必要か考えます

日時：10/27（土）10：00～15：00

会場：島田市 チャリム 21 参加対象者：地域活動に興味のある方

参加費：無料（昼食希望者 800 円）

※申込み締切 10/11（木）

島田駅南口送迎バス有り（事前申込）

★プログラムについてはHPをご覧ください。

★コミュニティ活動賞募集中！！

応募の対象と条件

- 1、今日的な生活課題、例えば、地域の活性化、高齢者問題や子育て支援、
自然環境の保護・保全などの快適な生活環境整備、青少年の健全育成、
ゴミ減量やリサイクル活動、国際交流などのテーマに取り組み、生き生
きとした明るい地域社会の形成に向けて活動しているもの。
- 2、活動（組織）が発足して、1年以上を経過したものとします。
- 3、中学校区の範囲を越えない区域を原則としますが、一定の範囲の区域で活
動することを規定している団体であれば対象とします。
- 4、過去5年間（平成25年度以降）にこの「コミュニティ活動賞」で優秀賞、優良
賞を受賞された地区集団については、本年度は応募できません。

賞

- 優秀賞……賞楯と記念品
- 優良賞……賞楯と記念品
- 奨励賞……賞状

発表

平成 30 年 12 月初旬（応募者に直接通知します）



コミカレねっとわー 支部研修会のお知らせ

●東部支部
10 月 27 日（土）
富士駅南まちづくりセンター
講演：富士山の噴火の歴史（仮題）

●西部支部
9 月 27 日（木）
菊川市中央公民館

終了



コミカレ
終了！

今後の活躍を
期待します！



通算39回目となる本年度の「コミュニティカレッジ」が9月15日
に終了しました。

男性23人、女性23人、計46人が修了し、昭和55年の第1回目から
の修了者は、2,282人となりました。

これからの地域での活動を期待します。

編集・発行

地域情報を
お寄せ下さい！

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階 【TEL】 054-251-3585 【FAX】 054-250-8681
【URL】 <http://www.sizcom.jp> 【E-mail】 sizucom0829@po.across.or.jp